

子どもたちの輝く瞳から学ぶ!

●経営革新塾しよう会講演会/その1

昨日9月20日夜は「経営革新塾しよう会講演会/ぼぼら春日部月間イベント」(主催:経営革新塾しよう会、共催:春日部市民活動センター)に、福島を拠点に活動されている認定NPO法人シーエスアールスクエア理事長の宍戸仙助様をお招きして「リタイヤ後は、利他Years! ~東南アジアの山岳少数民族の子どもたちの輝く瞳に学ぶ~」というタイトルでご講演をいただきました。

最初に当会の城和努会長のご挨拶「皆さん、こんばんは。開会にあたりひとご挨拶させていただきます。本日は春日部市民活動センターの共催をいただき講演会ができますことを嬉しく思っております。最初に、このチラシを見た時にアフガニスタンの山岳地帯で医師として、また灌漑事業や植林・農業指導をされていた故・中村哲さんのことを思い出しました。また、ネパール・ムスタンという不毛の地であった場所で作物が採れるように開発指導された農学者の故・近藤亨さんのことを思い浮かべました。そして今回、東南アジアの山岳少数民族の子どもたちのために学校を作られる活動をされているシーエスアールスクエアさんの活動を伺えるととのことで、日本人として凄く嬉しく思いました。近藤さんは『真の国際協力は深い人間愛であり、決して物資、金品の一方的供給ではない。支援を受ける人々が心から感謝し、自らが立ち上がる努力をはらう時、初めてその真価が現われるのである』という言葉を残されていますが、先ほど宍戸様、石塚様とお話をさせていただき、まさに国際協力というのはそういうことなのだという清々しい思いをいたしました。今日は、限られた時間ではございますが、そうしたお話を伺いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。」

～ぼぼら春日部月間イベント～
経営革新塾しよう会講演会
リタイヤ後は、利他Years!
 ～東南アジアの山岳少数民族の子どもたちの輝く瞳に学ぶ～
 講師:宍戸仙助氏
 (認定NPO法人シーエスアールスクエア理事長)



学校を輝く学びの場に
 東南アジアの子供たちの「瞳の輝き」
 国際理解の授業をとおして、
 日本の子供たち・先生方に「夢と希望」を

日時:2023年9月20日(水) 19:00-20:30
 会場:ぼぼら春日部4階会議室
 入場無料(定員50名)

主催:経営革新塾しよう (<https://www.shivooai.com/>)
 申込/連絡先:香田寛美 090-2427-5056
 共催:春日部市民活動センター

■リタイヤ後は、利他Years! ~東南アジアの山岳少数民族の子どもたちの輝く瞳に学ぶ~



皆さん、こんばんは。お作りいただいた資料にもございますように、私は元々は小学校の教員として、校長で退職しておりますので、このくらいの人数であればマイクなしで話をさせていただきます。

お配りした資料は、私どものパンフレットと会報の一部を入れさせていただきました。CDは地元のラジオ福島「お母さん教室 ~話の広場~」という番組で毎年2月と8月にお話しさせていただいております。これは今年8月に放送されたベトナム中部の話です。実は、ベトナム中部は枯葉剤の関係で、今でも井戸水からダイオキシンが出るのです。そうしたことを知らず

に、その水を飲んで30代から40代になって癌で亡くなる方が多いのです。そうした所で水の浄化装置を作った「水の浄化装置と一冊の絵本」という話です。もし時間がございましたらお聞きいただければ幸いです。

今日ここでお話しさせていただきますのは、北海道は利尻・礼文島から広島県などの各地で小中高校の生徒たちにお話をさせていただいています。やっと今年の10月26日に福岡県でお話をさせていただくことになっており、日本4島での講演が実現します。私が各地でお話しさせていただくテーマは決まっています。それは「人の役に立つ人間になろう」ということです。今日のテーマも同じです。今日は、ベトナムやラオスの子どもたちの話を織り込ませていただきますが、そうか、そんなことが大切なんだということが私なりに分かったというお話をさせていただきます。タイトルの利他は「現職を退職したらボランティアはいかがですか」というような意味です。

学校を輝く学びの場に
 Challenge for School Revival
 CSR SQUARE
 福島、日本、そして、世界の子どもたちのために
 認定NPO法人「シーエスアールスクエア」
 (CSR)は、次の3つの使命をもとに、東南アジアと日本の教育に貢献するために活動します。
あなたの協賛とご支援をお願いします。

私たちの3つの使命:

1. 東南アジアの子供たちの学習環境の改善
 ベトナム、ラオスなどの山岳少数民族の教育環境は改善されない学習環境の改善のために、日本企業の企業社会貢献活動(Corporate Social Responsibility)の取り組みや個人寄付などによる支援(学校、塾、トイレ、井戸などの施設整備)をおこなう。
2. 日本の児童生徒による継続支援と交流活動
 日本での国際理解やボランティア活動、日本と東南アジアの児童生徒の国際交流やボランティア活動などにも積極的に参加し、その経験を通じて、日本の子どもたちにリーダーシップを身に付け、国際社会で活躍する人材を育てる。
3. 日本の先生方と児童生徒の現地視察による学び教える勇気と希望の再発見
 (1)先生方のため:日本の小学校の先生方を派遣し、現地の教育現場での授業や学校運営の視察を行う。
 (2)児童生徒のため:日本の児童生徒と現地の児童生徒を交流し、現地でのボランティア活動や国際交流だけでなく、現地での生活体験やボランティア活動などを通じて、国際社会での活躍の機会を創出する。
 (3)地域社会のため:現地の児童生徒の生活環境を改善し、国際社会での活躍の機会を創出する。

CD収録内容:「水の浄化装置と一冊の絵本」
 2023年8月1日、8日、15日、22日放送
 認定NPO法人「シーエスアールスクエア」理事長 宍戸仙助

[掲載した資料:(写真左)パンフレット、(写真上)ラジオ福島で放送された「水の浄化装置と一冊の絵本」を収録したCD]

◆認定 NPO 法人 シーエスアールスクエア（輝く学校広場）について昨年

昨年9月に国税庁から認可をいただき、認定 NPO 法人になることができました。本来はコロナ禍前に取得する予定だったのですが、コロナ禍で会員は激減する、海外には一切行けない、国内の講演活動も17回まで激減するというようなことで申請も遅れました。コロナ禍前の講演会は50回から一番多い年で110回からやっています。昨年は少し復活して34回でした。

私の団体の使命は3つです。

【使命1】東南アジアの子供たちの学習環境の改善

今日、皆さんに見ていただきますが、学校とは思えないような環境で子どもたちが学んでいます。そんな子どもたちに、「何で学校に行って勉強したいの?」と聞くと、子どもたちは「一生懸命に働いてお父さんお母さんを楽しませてあげたい」「妹や弟に勉強しただけ勉強させてあげたい」という子どもたちの学習環境を改善【学校、寮、トイレ・井戸などの建設支援】することが一つの使命です。【写真はCSR²公式HPより引用、以下3点】



【使命2】日本の児童生徒による継続支援と交流活動

私が日本全国の小中高等学校で話をすると、「ぼくたちも私たちも、あの子どもたちの支援をしたい」と立ち上がってくれるのです。その子どもたちのお金や気持ちを現地に届ける、そして現地からお礼のメッセージなどを持ってきてフィードバックしてあげるとするのが2つ目の使命です。

【使命3】日本の先生方と児童生徒の現地視察による学び教える勇気と希望の再発見

小中学生は難しいので、日本の高校生を現地に連れていきます。旅行では絶対にいけない場所です。そこで現地の子どもたちと交流してもらう。それとともに、先生方にも行ってもらいます。何故かという、小中学生を教える先生方が「夢と希望」を失ったらおしまいだと思うのですよ。先生方が「夢と希望」を子どもたちに語る、教える、一緒に育むというようなことでないと、日本の教育は困るのではないかと考えています。



【写真:CSR2の講演会用PR動画YouTube「出前授業・講演会案内」より【<https://csr2.or.jp/lecture/>】、下記写真も同様】

YouTubeで「シーエスアールスクエア」と検索していただくと、私どもの団体の映像が出てまいります。その中に私どもの活動の紹介がありますので、一端をご紹介します。【以下、映像より】私が初めて東南アジアの山奥の学校に行き、子どもたちの前でギターを弾いて校歌を歌うはめになってしまったのです。その時の目がグサーッとものすごい輝きなんです。瞬きすらしないのですよ。二十四の瞳なんてものじゃない、凄いです。その時に、私はこういう瞳を目を一瞬で見たいからも教員になったということをおぼえていた

のです。その瞬間に、ひょっとしたら私が退職した後は日本の子どもたちにこの瞳を取り戻すことが私の仕事なのかなあと、ポヤッと思っていたのです。東南アジアでの教育環境改善の活動はもちろん大切です。ただ、それが現地の子どもたちのためだけではないということを今日、皆さんにお伝えしたいのです。私は全国の小中学校、高等学校でお話するのですが、何を話すかというと「人の役に立つ人間になろう」というのがテーマです。私が皆さんにお話するのは、ベトナムやラオス、カンボジアのことを知ってほしいのではなく、あの子どもたちのために何ができるのかを考えて欲しいのです。そしてもう一つは、勉強って何のためにするのか、学ばっていったい何のために学ばのかということがテーマなのです。



YouTubeの前半だけを見させていただきましたが、子どもたちの瞳の輝きが違いますよね。 《つづく》